

もの、數幾人ありや、又是等友誼を結べるもの
等が其團体中の他の小兒等に如何なる方法によ
りて干渉するや之を詳細に記述し且つ斯る小兒
等の年齢及男女何れの性なるか述べられたし

右個條はクラーク大學校よりは是等の間に對し
ての答書を集むる事を小妹に依頼されたる者
なれば誠に御面倒なる御願にて恐縮の至に存
じ候得共何卒悉敷取調べ御返書預り度偏に願
あけてまう
上奉り候

西區川口町廿五番館

ダニエル

陣中佳話(露國小女の從軍)

デリー、テレグラフの巴里通信員が、此頃旅順の
露軍中にて見たる所なりとて傳へたる一片可憐の

情話の電報新聞に記載せられたる面白き物語は次
の如し。

永世不落と頼みつる旅順も、既に艦を失ひ將を殺
し、港口は閉塞され陸上通路は絶ゆるなど、今は
餘喘を待つのみにて、止り残れる守備隊も半夜の
夢は甚ど冷かなるを嘆つに至りたるが、此守備隊
の中西比利亚聯隊に屬する一人の兵卒あり、リヤ
トニコツと名乗る者なるが容顏の麗しき、万縁
叢中の紅とも見え、何時も隊中の噂に上りては愛
で者となり居たり、此美少年應て選ばれてさる若
き士官の從卒となり、其より其營舎に同宿する事
となりしが、或る日の事、彼は主用にて外出し、
誤ちて其脚を挫折したるにぞ、係の者は例のやう
に彼を病院に送らんとしたるに、如何なる故にや
彼は入院さるゝを忌む事甚だしく頻りにも拒みて

止まざりしが、さた止むべくもあらで強制したるに、彼は到底も拒み難きをみるや、突然にもペンナイフを以て其左腕の動脈を斷ちたり、斯くて病院に送られ、病床に移されて、愈よ施術せんとして着衣を脱せしめたるに、驚くべし此兵卒と見えたる美少年は誠は男装せる少女にして、妙齡十八風に耐ふまじき身ならんとは、少女は病院に在る事三日なりしが出血の甚だしかりし爲、遂に果敢なくも死去りたり、さて斯かる少女の、如何なれば丈夫も難しとする戰場に立難り、男子の装までもして人目を避けたるかと思ふに、此には憐れにも優しき物語あり、畏しきは戀の力かな、此少女は本國に在りし折、年若き一士官に思を寄せて朝に夜に夢に驚き夢に泣く身となりしが、斯くまでにも思ふ戀も遂げられで、やがては身をも世をも果

敢なみゐたりしが、偶ま此度の事起りて、其士官は遠く異域の果にまで出征する事と成りたるにぞ少女は一人本國に止まりて物思ひをるに堪へず、如何にもして姿も見聲も聞き得る身と成らんとて斯く甲斐々々しくも装を變へて跡を慕ひ來りしなり、然るに深き縁にや擇ばれて思へる士官の從卒とまで成り得しに、嬉しくて心の中をも告げたるに、士官は如何に思ひてか其請を容れざるにぞ、されど何時かは士官の心の解くる折もあらんかと果敢なき望をも思ひ頼みせめては、其人の下に侍き方便なき行軍の佞びしさを慰め得るを樂みに身をも心をも捧げぬたりし中、偶ま不慮の事よりして其身分の發覺せんとするに、少女心の思迫りて吾と吾命を斷つに至りしなり、此憫なる様を見るや、流石氣強き士官も心折れて、其身の無情なり

しを悔いてにや、程なくも其營舎の内にて、腦骨を碎きて少女の跡を逐ひたりとか

フレーベル會俳句端書集

一、課題 牡丹、螢、夏の月、田植、夕立、

(凡て一人十句以下)

一、〆切 六月廿五日限り

一、披露 八月發行本誌文苑欄

一、賞品 天地人三座には美景を呈す

一、撰者 當分本會の撰とす、

一、投稿 本誌購讀者は何人にも投吟すること

を得用紙は端書に限り『可成繪端書に記載せ

られたし』住所氏名雅號を明記し都合上必ら

ず左の名宛にて送らるべし

埼玉縣入間郡芳野村

フレーベル會俳句掛

鹽野奇零

●雜吟十句(結幼稚園)

無一庵奇零

朝風の青葉若葉や幼稚園
春風に赤きリボンや幼稚園
オルガンのもれてのどかや幼稚園
休み日や蝶舞ふ畫の幼稚園
菫つむ裏の小土手や幼稚園
花折て叱らるゝ子や幼稚園
葉櫻に冷たき朝や幼稚園
青梅に石投げける子や幼稚園
雨の日や若葉にくらき幼稚園
鞦韆の日暮閑なり幼稚園

